

三津田支坊 花まつり

四月七日、三津田支坊で花まつりが行われました。こちらはご門徒が主催。今年で八回目になります。お菓子を五十個準備しましたが、あちこちから皆さん口コミで次々とお参り下さり、準備したお菓子が足りなくなりました。



新世話人

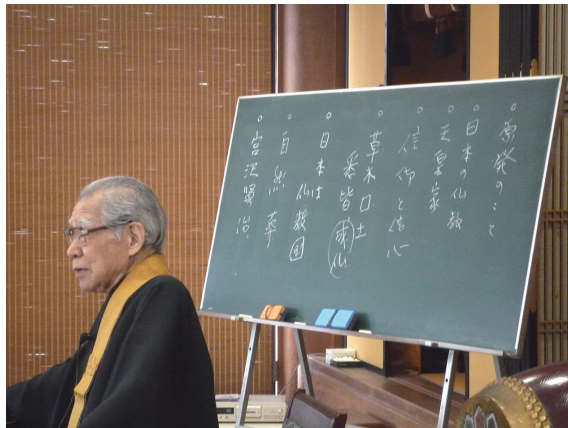
三津田支坊地区を長年お世話下さった松原絹さんが体調を崩され、かわりに沖本聖子さんがお世話下さることになりました。松原さん、長い間ありがとうございました。沖本さん、どうぞよろしくお願いします。

春季永代経

今年四月の永代経法座は信楽峻磨先生（元龍谷大学学長）にお願いしました。

父の日、母の日、子どもの日はあるが先祖の日はない。「弔う」とは「亡くなった人を心にかける」意。昨今は葬式も墓もない時代。せめて身内だけでも末永く思うてやりなさいや。現代人は何が忙しいのか、「(心)」を「(心)」なくしている、大事な心を失っている。人間は五万年前から死んだ身内に花を供えた。五万年経った今の若者は、親が死んでも葬式もしないや花一本も供えない。どうなっているのか。

信楽峻磨先生



まあ、いずれにしても死んでいかなければならないけれど、死んだらどうなるの？生まれる前はどうだったの？犬や猫じゃないんだからここをどう考えるのか。そこを抜きにするから人生が宙に浮く(略)。
ご満座は御示談(仏法・人生の質疑応答)。参詣者からは、原発・天皇後継者・自然葬など、色々質問が出ました。

宗祖親鸞聖人

降誕会つとまる

降誕会とは、親鸞聖人のお誕生日(五月二十一日)のこと。三ヶ所の西教寺では、いろいろ趣向を凝らしてお祝いしました。



三津田支坊お斎

三津田支坊は、熊本から大松龍昭先生。門徒は現世祈禱やまじないにとられないというお話がよく分かったと評判でした。
長ノ木本坊は、長岡正信先生(呉市西岸寺)でした。ご満座には、ご門徒有志による謡曲「實盛」と仕舞「羽衣」を鑑賞しました。



仕舞「羽衣」の様子。謡曲「實盛」では、別時念仏をお聞かせいただきました。



恒例のお抹茶のお接待も。草庵での様子。

